

「世界市民」になるには？

木 村 愛

2014年9月から2015年3月まで、職員の海外研修（海外拠点研修）にてカナダのトロントに派遣され、冬のカナダで英語を勉強する日々を送りました。職員もグローバル化への対応が求められる中、英語が大して得意な訳ではない職員も海外に送り出そうということで、派遣されることとなったのです。

トロントはカナダ最大の都市、人口は約261万人。大阪市よりもやや少ない人口の都市です。しかしながらその261万人の内訳は多彩で、人口の半分はカナダ以外の国で生まれているという移民の街でもあります。街中で英語以外の言語が聞こえる事は日常茶飯事、救急電話も150以上の言語に対応しているというので驚きます。街中には、ネイバーフッドと呼ばれるローカル色の濃いエリアがいたるところにあり、インド、イタリア、ギリシア、ジャマイカ、ポルトガル、韓国、中国などそれぞれの国・地域の食材や日用品を取りそろえて個性的かつ強烈なオーラを放ってトロントの街をより魅力的にしています。

そんなトロントの街で、語学学校で世界各国から集まる留学生と共に学び、トロント大学の中にある関西学院の海外拠点に通い職員や学生と交流していく中で、英語が満足に話せず悔しい思いをしたり、逆に言葉が十分でなくても工夫することで相手に思いを伝えることができたという自信を得たりと様々な経験をすることができました。

このように様々な人々と交流する中で「世界市民とは何か？」という大きな問いに直面しました。私の答えは、「まず目の前にいる人を大切にする、尊重すること」です。毎日様々な人と話す中で、一番重要なことは、いかに言語を上手く運用できるかではなく、相手の背景、思いや考えにどれだけ向き合い、どれだけ理解できるかであるとトロントに在中で気づかされました。これには失望や忍耐を伴うこともありますし、そもそも根底に他者に対して興味を持続けることが不可欠です。しかしその興味をこちらから発信することこそ世界市民への第一歩ではないでしょうか。

秋学期が始まり忙しい毎日の中で、つい忘れそうになってしまいますが、ぜひ皆さんも目の前にいる人の声を聴き、じっくり話し合い、寄り添いあえる世界市民を目指しませんか？

（経営戦略研究科職員）